



Made in Japan

5108のアクセサリーは地金をはじめ、小さなパーツやチェーンも信頼のおける国内のメーカーで製造しています。型作り、鋳造、研磨、仕上げ、最終チェックにいたるまで、すべての工程を日本国内で丁寧に手間と時間をかけてつくっています。海外の工場で安価で大量にスピード生産されるアクセサリーが多いなか、5108はこれまで工業用製品などを手がけてきた国内のメーカーで製造することで、「安全な素材」「安定した品質」「手頃な価格帯」を実現することができました。

実際に工場ではどういった工程で5108のネックレスが作られているのか、工場の方にその生産について詳しく説明していただきました。

—まずは、工場についてお伺いしたいのですが、普段こういったものを製造されているのでしょうか？

アクセサリー以外ですと、会社の社章などを製造しています。これも言うてみれば「会社の顔」ともいうべきものなので、かなり繊細でクォリティが求められる仕事です。最近では中国などで大量に製作するところもありますが、やはり日本の会社としてそれなりのクォリティを求めてご発注いただく会社さんが多いですね。

—製造の工程を簡単に説明いただけますでしょうか。

工程がかなりありますので、なかなか簡単に説明するのは難しいですね(笑)。

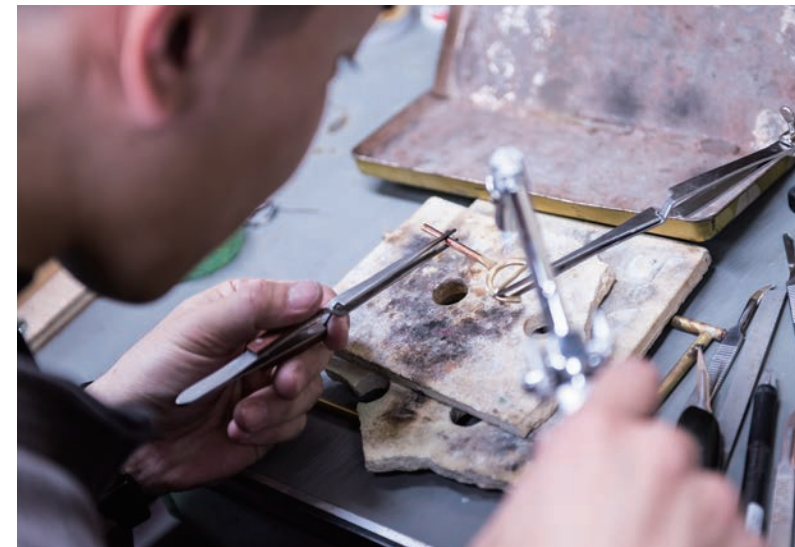
まずは鋳造の工程になるのですが、順番で言うと、①アクリルで原型製作 ②ワッ

クス用シリコン型(メス型)を製作 ③ワックス原型製作(オス型) ④石膏型製作(メス型)⑤石膏型に真鍮を流し込んで、ベースが完成 ⑥仕上げ作業 になります。

まずアクリルをレーザーカッターでカットして最初の原型を作ります。言わばたくさんつくるための「種」にあたるものです。その種を増やしていくために、このオレンジ色のシリコン型(写真右上)を作ります。そのときに鋳込むための道筋というものを考えながら作っていくんです。地味な作業ですが、実はここが熟練の技術や経験から来る勘といった「職人の腕」によってクォリティの差がいちばん出やすい工程です。

—というと？

どの部分から真鍮を流し込んでいくかを考えながらつくらないと、全体に均等に金属が行き渡らず、形にヒズミや歪みがでてしまうんです。しかもうまく道筋を付けられていなかったとしても製品ができあがるまでわからない。この場ではうまくいってそうにみえても、うまくできてないものは仕上げのメッキをかけた時はじめてわかったりするんです。一番最初の工程なので、最後の仕上がりがめちゃくちゃイメージできていないと、ここでのミスが後の工程すべてに影響してしまう。ここでミスがあると、できあがったアクセサリが全部ゴミになってしまうものですから、責任重大です。



ただ仕上がってみないとわからないことも多いので、「まー多少歪んでてもできてしまったし、これでいきましょう」ってなる気持ちもわかる。プロの視点でいうと市場に出回っている結構高額なものでも、先端部分にちゃんと金属が入り込まずに薄くなっていたりして、おそらく最初の鋳込み口がうまくできていないな、と感じるものもあったりします。特にお店の人に指摘したりはしませんけど、個人的にはとても気になります。

—なるほど、非常に繊細な作業なんですね。ちなみにこの職人になられてどれくらいなのでしょう？

私が20年、あわせてもう一人新人を育成しているところです。

—ちゃんと技術を継承されていていらっしゃるんですね。ではその後の工程を教えてくださいませんか？

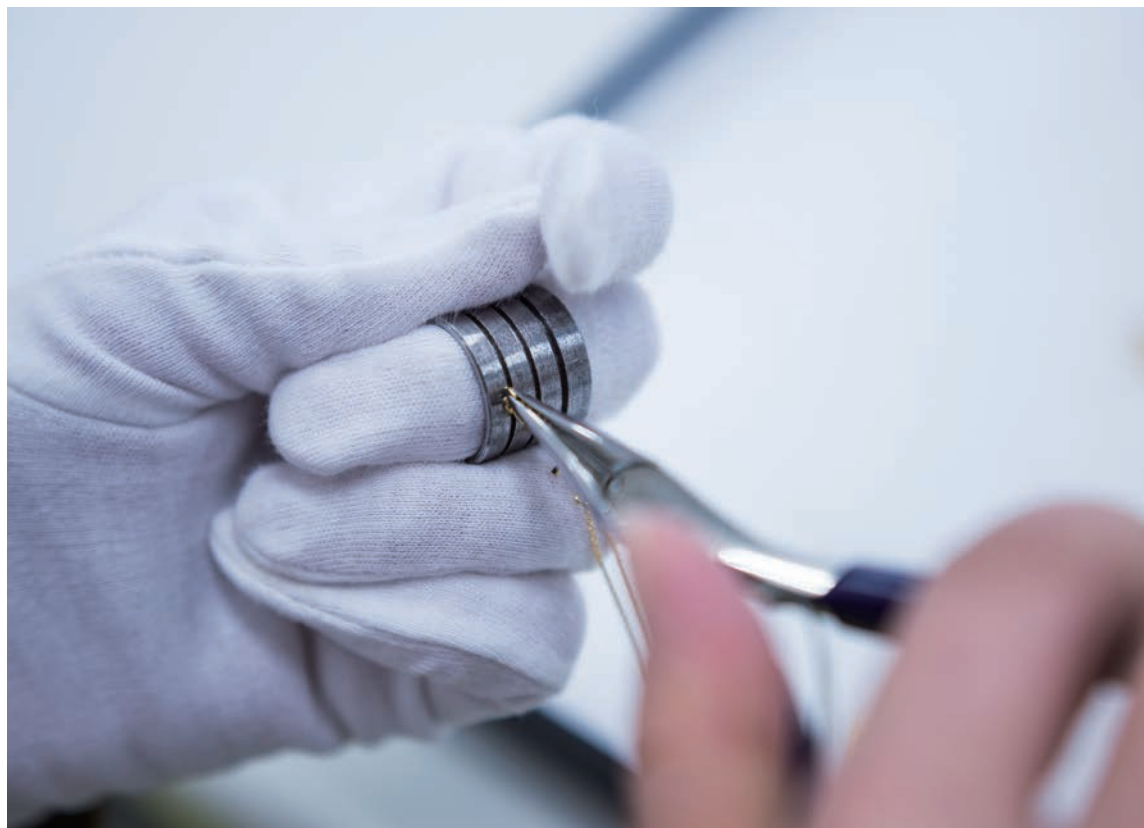
そのあとではできあがったシリコン型にこの緑色のワックスを流し込んでワックス原型をたくさんつくり、ツリー状につなぎ合わせて、円形の筒に石膏を流し込んで型をつくります。石膏が完全に固まったら、そこに真鍮を流し込み、できあがった真鍮のツリーから一つ一つ製品を丁寧に切り離していきます。

これらの工程も、ほとんどが手作業になるので、量産といってもボタンを押したらぽんと商品ができるって訳にはいかないですね。一つ一つの工程に意味があって、どこかの工程がうまくいかないと完成品に影響が出てしまう。だから、どの部分も気が抜けない作業が続きますね。

—なるほど。それから仕上げの作業にはいるわけですね。

はい。仕上げ作業は主に、「磨き」と「メッキ」の作業になります。特に磨きの作業は重要で、作業としては高速で回転するバフで研磨をして輝きを出していきます。ここでのクォリティの差は特に側面にでますね。表面はピカピカつるっとしているのに側面が少しボソボソしているようなものがあれば、それはおそらく磨きの工程を省いているものです。安かろう、悪かろうという商品はこういったところにでてしまいますね。

はっきり言うと側面を磨くのは大変で面倒なんです。形も円形や四角であれば簡単なんですけど、複雑な形状のものも多いですし。できればやりたくない(笑)。でもそれを怠ってしまうと、製品の精度にでてしまう。仕上げの工程ですし、これまでの丁寧な作業が台なしになってしまいますからね。とくにネックレスは身につけるものなので、角のエッジにも気をつけて研磨しています。



—そして最後にチェーンをつけて、パッケージングの作業ですね。

そうですね。基本的にはそうなのですが、うちの場合はここで製品の最終チェックもおこなっています。一つ一つじっくりみて、うちの製品として問題ないクォリティなのか、熟練の職人が作業してくれています。ここでの作業は本当に細かいので、みなさん目が疲れるって言ってますね。あと肩もすごく凝る。そんな作業を毎日していただいているので、ホント頭が上がりません。



一つの製品が完成するまでには、こうしてたくさんのスタッフの方々の連携で作られている。どれか一つの工程にミスがあるだけで、製品のクォリティに影響がでる。5108のアクセサリーにはそういった職人さん一人一人の想いがこもっています。

使用上の注意

・体質によってかゆみ、かぶれが生じる場合があります。皮膚に異常を感じたときはご着用をおやめいただき、専門医にご相談ください。

・入浴(特に温泉)、手洗い、炊事、洗濯等の際はお外し下さい。

・油、薬品、洗剤や漂白剤、化粧品が出来る限り付着しないようにお気をつけください。劣化、変質が生じる原因になります。

・乳幼児や子供がなめたり、口に入れたりすることのないよう、手の届く場所に放置したり保管することはお避けください。万一飲み込んだ場合はすぐに医師にご相談ください。

お手入れについて

アクセサリーは、肌に直接触れるため、汗や皮脂、ホコリ、香水、整髪料などに反応し、変色やくすみを引き起こす原因になります。特に夏場の塩分を含んだ汗が着用後そのまま保管されると、短期間で劣化することがあります。汗により表面加工(メッキ)が劣化しメッキが剥がれてしまった場合は、残念ながら元の色に戻すことはできません。(劣化を少しでも遅らせて)長くお使いいただけますように お取扱いは十分ご注意ください。

お手入れ方法

普段、特別なお手入れは頂かなくて大丈夫ですが、着用後はやわらかい布で拭いて保管してください。ときどきぬるま湯で優しくゆすぎ洗いをしてください。メッキを劣化させてしまいますので石鹸は使用しないでください。洗浄後は、柔らかいタオルなどで水気をきちんと吸い取り良く乾かしてください。こすったりすると表面加工のメッキがはがれる原因になります。

Disney collection

Disney collectionはウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社と株式会社ニューtralコーポレーションの契約により、製造したものです。

発売元 株式会社ニューtralコーポレーション

©Disney ©Disney / Pixar

Based on the “Winnie the Pooh” works by A.A. Milne and E.H. shepard.